



卒業に

杉山平一

もう私は書かねばならなかつた  
けふまで私は少年であつた  
しづかに あのいつばいの夢を  
銅貨のやうににぎりしめて  
いつまでも いつまでも  
ゆつくり ナイフを研ぎ  
心こめて 鉛筆を削つてゐたかつたものを  
新しい雑記帳よ よごれないでくれ  
とがつかつた芯よ 折れないでくれ